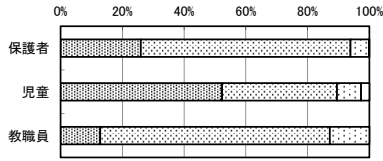


■ 4-そう思う □ 3-どちらかといえば、そう思う □ 2-どちらかといえば、そう思わない □ 1-そう思わない

学校教育目標

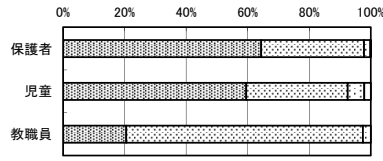
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



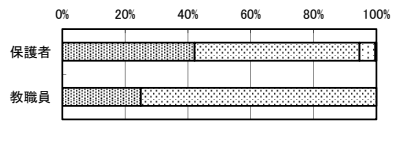
2 意欲的な学校生活

子どもは、楽しい学校生活が送れていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

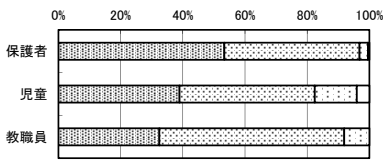


【学校から】3項目の評価結果から、学校の教育目標は概ね理解され、その達成に向けた取組ができていると考えることができる。多くの児童が意欲的に学校生活を送っているし、児童の学校生活を支える教職員の連携協力も良好である。しかし、教育方針や教育目標の理解については、約1割の保護者・児童・教職員が不十分さを感じている。「教育目標」や「校訓」「めざす学校像」「めざす児童像」などは、児童の生活や学習と関連付けながら諸教育活動を一層充実させていくことが重要である。また、1割の児童が意欲的な学校生活を送ることができていない現状は、今後の大きな課題となる。

教科指導

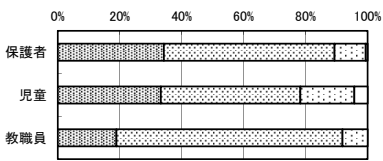
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

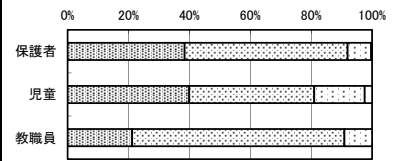


【学校から】教職員の授業に対する姿勢について、児童と保護者・教職員とも概ねよい方向に受け止められている。ただ約2割の児童が教職員が分かる楽しい授業づくりをしているようには受け取っていないことが課題である。学習態度については、意欲的に参加してないと感じている児童が2割強見あたる。分かる・楽しい授業づくりに努めることがこれらの児童への対応につながると考えられる。

総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。

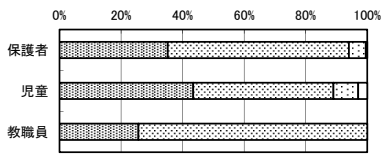


【学校から】児童や保護者の評価に比べて、教職員の評価が低い。このことへの対応として、年間計画を学校全体で見直し、教師が主体的に立案・計画・実践するような年間計画を作成する必要がある。

道徳教育 心の教育

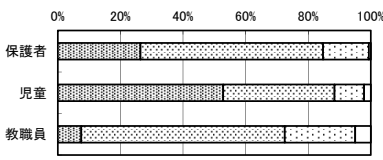
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切に心の教育の充実に努めていると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。

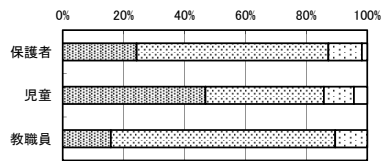


【学校から】道徳、心の教育については、保護者、児童、教職員ともに概ね充実に向けていると評価している。しかし教職員の高い評価に比べ、児童、保護者の約1割は充実がなされていないと受け止めている。授業改善や授業公開等を行いながら今後も指導の充実が必要がある。あいさつ、礼儀については、保護者の8割以上が概ねできていると評価しているのに対して、教職員の評価は1割ほど低くなっている。児童は「できている」と半数以上が評価しているが、教職員は「できている」とは感じておらず大きな差が見られる。誰に対しても、どんな場でも気持ちよいあいさつができるように日々の取組をしていく必要がある。

人権教育

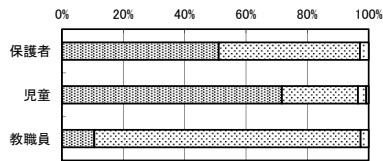
9 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切に指導や対応ができていると思いますか。



10 友だちへの思いやり

子どもは、友だちとなかよくできていると思いますか。

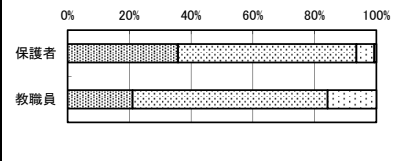


【学校から】保護者・児童・教職員ともに肯定的な評価が約9割あることは歓迎したい。しかし1割強の調査対象者から「9 一人一人の生命の尊重」について否定的な評価が出されたことは看過できず、特に児童の「そう思わない」とする意見が約5%あることについては、今後丁寧な取り組みをしていかなければならない。

特別支援教育

11 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

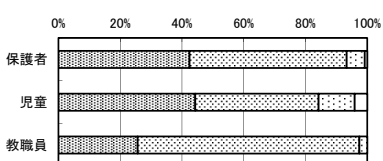


【学校から】支援が必要な児童には全教職員での支援体制を整えてきたが、まだ不十分だと評価した教職員が2割近くいる。関係機関と連携しながら一層機能する支援体制を築く必要がある。

生徒指導 教育相談

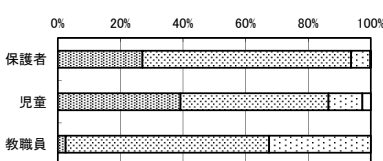
12 生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。



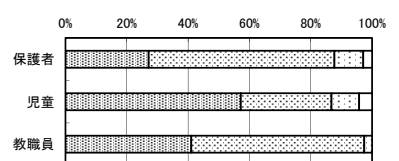
13 規範意識

子どもは、まきりやマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

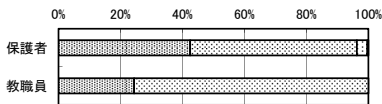


【学校から】生徒理解については、保護者・児童・教職員が同様に80%を越える目標達成の評価がなされている。一方、2割弱の児童が「理解されていない」と回答しており課題が残る。規範意識については、保護者・児童の評価に対して教職員の評価（特に「そう思う」）が著しく低い。これは、教職員の評価規準が保護者・児童のそれと比べて高いことが考えられる。児童全体で見ると、概ね規範的な言動ができていると考える。いじめや問題への対応については、生徒理解と同様の傾向が見られる。「そう思う」の割合が児童で約60%、教職員で約40%と比較的高い値を示していることから、現在の取組が効果的であると言えるだろう。

健康教育 安全

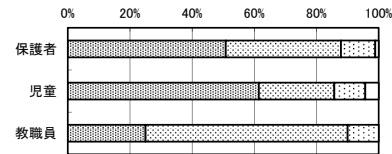
15 安全と事故防止

学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



16 体力向上

子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。

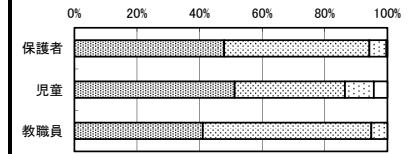


【学校から】校舎は古い及安全点検を確実に、事故発生現場の状況改善をするなど、早めに対応を心がけている。また、交通ルールについても繰り返し指導を行っているが、今後も家庭・地域と連携していく。外遊びやスポーツについては、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいるが、個人差が大きい。今後、体力向上のための内容や方法について工夫し、継続して取り組んでいかねばならない。

学校行事

17 学校行事への参加と工夫

学校では、運動会や学習発表会などの学校行事が工夫されていると思いますか。

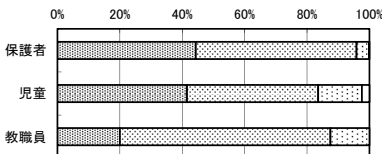


【学校から】保護者・教職員ともに9割以上が「どちらか」という工夫されている」と答えている。有意義な学校行事が児童によってより楽しいものになるよう工夫する必要がある。

学校環境

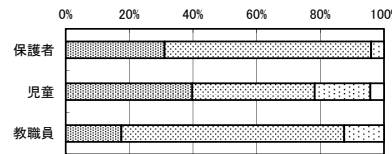
18 環境の整理・美化

学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。



19 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

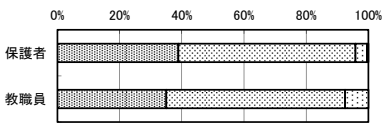


【学校から】環境の整理・美化は、保護者や児童の評価に比べて教職員の評価が低い。教室掲示や草花の栽培に十分な時間がとれていない現状への反省があると思われる。校舎外の環境は樹木の剪定や花壇の整備などで見違えるようきれいになっている。また、施設・設備の安全管理については、月1回の安全点検を実施し、不良箇所はその都度改善を図ってきたが、なかにはとても古い施設・設備もあり、使いにくく不便なものもある。そのためか2割強の児童の低評価であり、1割強の教職員の低評価であると考えられる。学校予算で計画的に改善を図っていくとともに、大きな予算を伴うものは教育委員会と相談しながら施設・設備を充実させていく。

情報の公開・発信

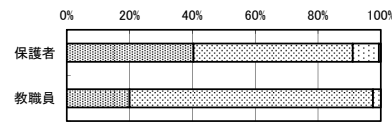
20 学校の予定等がわかる情報発信

学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。



21 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。

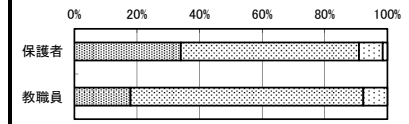


【学校から】情報の公開・発信の状況は概ね良好である。保護者が、学校便り「ちはら」や各学年・学級便りを読んだり、学校参観をしたりすることを通して学校の教育活動の様子をよく把握されている結果だといえる。しかし、教育活動への参加については、約1割の保護者が参加しにくいと回答している。保護者が参加する学校行事や授業参観の開催については、時期・曜日・時間帯など、より多くの保護者が参加できるようにPTAと連携を図っていく。

家庭・地域との連携

22 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



【学校から】約1割の保護者と教職員が相互の連携や協力の不足を感じている。教育効果を高めるためには、相互の連携・協力は不可欠である。保護者が教育活動へ参加する機会を一層充実させることが重要である。

来年度の具体的な取り組みについて

- 一人一人の児童を大切にするために、友達関係等に気をつけ、毎日の学校生活での見とりを確実にやっていく。また、家庭との連絡も密に行い、信頼関係を構築し、児童について適切な把握がなされるようにする。
- 日々の職員相互の情報交換を速やかに行い、生活朝会や職員研修を有効に活用していく。必要に応じて関係諸機関とも連携を行い、急を要する事態にも迅速に対応できるようにしていく。
- 現在行っている日常観察や、日記指導、アンケート調査などに継続して取り組むとともに、道徳の時間や当別活動での学習を工夫するなどして、多様な児童理解に努める。
- 生徒指導の面だけでなく、道徳教育や特別活動を通じた豊かな心の育成を図るとともに、児童が充実した学校生活を送ることができる学級経営に努めることが規範意識を醸成する基盤となると考える。
- いじめや問題への対応については、これまでどおりの取組を継続して行うことで高い効果が得られると考える。Q-Uなどの質問紙(標準化された心理テスト)で児童の学校生活満足度を測ることも一つの方法として考えられる。
- 行事の期日や内容等は、保護者の方が参加しやすいように早めに案内状を配り知らせるようにしていく。また、内容も児童一人一人の活躍の場があり、個性が発揮できる活動になるように考えていく。
- 分かる授業を行うために、授業のねらいを明確にして授業を行う。また、楽しい授業を行うために、一人一人の子どもが活躍できる場を設定する。授業の工夫として発問や学習形態・学習活動等について工夫する。
- 「総合的な学習の時間」については、3月までに新学習指導要領のねらいに沿った年間計画の見直しを行う。地域の学習素材を活用した年間計画になるように、学年が核となり、学校全体で作成する。
- 体力向上については、授業・休み時間・部活動など、よりたくさん児童が関心をもって意欲的に取り組めるような場を設定していく。また安全面では、安全点検をした後の措置を確実に実行。事故発生の場合は、状況を全職員で認識し、対策を素早くとる。
- 環境部では堆肥づくりを中心に学校の環境を生かす方策を検討する。特に愛鳥教育と栽培活動に一層の充実を図る。

学校関係者評価

- 学校内の詳細までなかなか理解が行き届かなかった。学校評価は校区内で見かける子どもたちの様子や学校便り、三校連絡会等での情報を参考にした。
- 子どもたちにいつもいつも交通安全の意識を持たせることは大変難しいことと思うが、具体的な事故の例を取り上げたりしながら、繰り返し繰り返し注意をしていかなければならない。家庭にも同じように繰り返しメッセージを発信していくことが大切である。
- 子どもたちへの朝の読み聞かせを長年しているが、子どもたちの話を聞く姿勢は習慣として身に付いていると感じられる。子どもたちの素直な反応はとても楽しく、読んでいる方もやりがいを感じている。
- 子どもたちの生きる力を育成するためには、地域人材や関係諸機関など、外部人材を積極的に活用していくことが必要である。
- 学校評価アンケートを記入するとき、評価ができない項目があった。今後学校の情報をどのように収集するか、また、学校側は学校情報をどのように提供していくかが課題である。
- 学校と家庭が目指す子ども像に向かって連携していくことが大切である。